



2015年夏 1000人の歌声が、日本から全米へそして世界へ

プロデューサー: Jett Edwards / 共同プロデューサー: Jenna

2015年夏、世界の音楽シーンに新たな歴史を刻むCDが誕生する。1000人の声を収録した日本発の作品が、全米および世界で発売されることになった。アーティスト名は、「JAPAN MASS CHOIR」。日本中から1000人のゴスペルファンを大集結させ、日本発のオリジナル作品を作ろうという、これまでにない試み。

このプロジェクトのプロデューサーは、あのモータウンレーベルやMichael Jackson一族のレーベル「The Jackson Record」で長年プロデューサーとして活躍してきたJett Edwards。過去に手掛けたアーティストは、Janet Jackson、Diana Ross、The Crusaders、The Temptations、George Bensonなどアメリカのトップスターたち。現在は拠点を東京に移し、プロデュースの他、自身もゴスペルアーティストとして活動している。



共同プロデューサーでありこの企画の発起人であるJenna(ジェンナ)は、NHKドキュメンタリーや多くの新聞、雑誌にも取り上げられている社会起業家/ゴスペルアーティスト。10代から米軍基地の黒人教会で経験を積んだ後、現在はゴスペルと国際協力を掛け合わせた活動を行う団体「NGOゴスペル広場」のトップとして、全国23拠点、2000人のメンバーを率いる。

二人は2014年の春に出会い、ゴスペル音楽への思いで意気投合。日本のゴスペルシーンを外の世界へ紹介していくこと、そして日本人に黒人音楽としてのゴスペルのより深い歴史的・文化的背景を伝えていくことを目的とし、「Lifeline Records」という新レーベルを設立する。



日本におけるゴスペルファンは、1992年の映画「天使にラブソングを…」シリーズの大ヒット以来増える一方で、現在のゴスペル人口は40万人とも言われている。北海道から沖縄まで、ゴスペルグループは日本中に多数存在する。それは必ずしも教会ではなく、音楽スクール、カルチャーセンター、サークルなど形態は様々だ。子供からシニア世代まで、「習い事」としてゴスペルは日本

にすっかり定着している。大人数で大きい声を出して歌う快感は、ストレス発散にもなる。

先述の映画でも使われた「Oh Happy Day」をはじめ、様々なアメリカのゴスペルグループの歌が日本中で歌われており、ニューヨークにいけばハーレムは今や日本人に人気の「ゴスペル観光」スポットとなっている。

エドワーズはこのような日本のゴスペル人気に対し、「大勢の日本人がゴスペルを楽しんでいるのに驚いたが、ゴスペルの持つ真の意味、歴史的背景やメッセージについて理解している人は少ないように思う」と語る。



全身全霊で歌い上げるゴスペル音楽には不思議な力があり、歌いながら感極まって涙を流した経験がある人も多い。この音楽は、アフリカから奴隷として連れてこられたアフリカ系アメリカ人の苦難の歴史の中で作り上げられてきたもの。絶望の中で歌われた「希望の歌」。そんなゴスペルの真の意味をもっと広く知ってほしいという思いも込めて、今回の 1000 人という前代未聞の規模のレコーディング企画が生まれた。

アメリカ人プロデューサーのもと、50 を越える日本のゴスペルグループが集まり、ひとつの作品作りに情熱を注ぐ。新聞やラジオを通して参加者を募った。日本を代表するゴスペル講師陣も集結。日本のゴスペルシーンに、「横のつながり」という新たな流れが生まれることになった。練習会は 2015 年 1 月から日本各地で開かれ、最終リハーサルとレコーディングは 3 月 14 日・15 日に渋谷の青山学院大学の講堂にて行われた。

CD の発売は 2015 年 7 月、同月にアメリカ南部州へツアーが計画されており、レコーディング参加メンバーの中から約 40 名が渡米予定。日本発のゴスペル作品が、アメリカに上陸する。



お問合せ：info@japanmasschoir.com

URL：<http://www.japanmasschoir.com>